

山形大学広報誌

みどり樹

Yamagata University Quarterly Magazine

Midori^{gi}

vol.32
Summer 2007



特集

日本一ハッピーな
キャリア教育を
目指す工学部。

研究室訪問／工学部

物質と熱の関係に着目。



特集

現代GP“社会で輝くエンジニアの育成”

日本一ハッピーな キャリア教育を 目指す工学部。

数ある大学の中でも屈指の就職率を誇る、わが山形大学工学部。その就職率は限りなく100%に近い。しかし、その数字に満足することなく、社会で輝くエンジニアを育成するために、工学部では「体験と実習を礎とする職業観形成法の取組」という教育プログラムに取り組んでいる。その取り組みが評価を受け、文部科学省の平成18年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム(略して現代GP)に採択された。2年目に入ってより本格的なプログラムへと進行中の工学部を訪ねてみた。

以前からの取り組みが評価され 現代GPに採択される。

工学部では、以前から学生の職業観形成や就職支援に力を注いできました。平成17年度には米沢キャンパス内に各学科の担当教員やキャリア教育を専門とする教員で組織された「キャリアサービスセンター」を開設。一学部での設置は全国的に見てもあまり例がないということで、こんなところからも意気込みが伝わってきます。

そんな工学部で現在取り組んでいるのが「実践的総合キャリア教育の推進～体験と実習を礎とする職業観形成法の確立～」プログラムです。これは「社会で輝くエンジニア」の育成を目指し、従来の学部カリキュラムに加えて、職業観形成と意欲向上を図るための教育法を確立しようとするものです。この取り組みは、競争的資金を伴う文部科学省の平成18年度現代的教育ニーズ取組支援プログラム(略して現代GP)に6倍の競争率という難関の中、見事採択されました。

現代GPとは、「現代的教育ニーズに即した優れた取組(Good Practice)」の略で、各大学・短期大学・高等専門学校が実施する教育改革の中から優れた取り組みを選び、それを支援するとともに、広く社会に情報提供することで他大学等も積極的に教育改革に取り組むことを促すものです。

幸福な職業人生を送ってほしいから、 研修により教員も相談力アップへ。

確かな職業観の形成のためには「自分・自己の理解」、「働くことの意味の理解」、「職業・仕事の理解」が必要との認識に立ち、工学部では、入学から卒業まで、段階的で継続的な総合的キャリア形成プログラムを実

践しています。職業観形成に関する教育科目の一例としては、「自分の未来を描いてみる」、「キャリア形成論」、「キャリアプランニング」、「マナー講座」等があります。

また、山形大学には「YUサポータリングシステム」という学生支援制度がありますが、従来、このシステムは各学部教員がアドバイザーとして修学・生活等の様々な面に指導・助言を行う担任制のようなものでした。工学部ではこのシステムを応用して、教員対象の各種研修を実施し、能力が認められる教員を選抜し学生のキャリア形成に関する個別相談にも対応できる体制を整えていく考えです。

先頃、外部の著名な講師による講演会や東京サテライトからの遠隔セミナーにも多数の教員が参加し、もともと学生の指導に対し熱心な先生ばかりでしたがさらなる意識向上に取り組むことで、工学部のキャリア支援は、ますます強力なものになっています。

自分を理解し、仕事を理解し、 確かな職業観で早期離職に歯止め。

このプログラムには、3つの大きな特徴があります。1つは、学生向けのe-ラーニングソフト「自己理解用ツール」の開発。これはパソコンからの質問に答えるカタチで、自分の価値観を9つに分類させるエニアグラムという手法やホーランドの6分類という手法で、潜在的な傾向や価値観、職業に対する興味等を引き出します。これにSWOT分析というマーケティングの手法を応用し、自分の強みと弱みを理解し、社会の機会や脅威を分析することで、自分の適性や市場価値、強化すべきポイントを知ることができます。その結果から様々な職業の中でも何が自分に向いているのかを自分で考え、選択していくソフトです。この



志村 勉

しむらつとむ ●大学院理工学研究科教授／東京都出身。一級建築士。大手エンジニアリング企業で建築・橋梁の構造エンジニアとして従事。レインボーブリッジ等多数の建設に携わる。2005年11月より現職。大前研一氏のアタッカーズビジネススクール講師も務めている。

遠隔セミナー風景

工学部と東京サテライトを結んで行われた遠隔セミナー。教員研修の一環で、まず教員が変わらなければとの呼びかけに応じて、たくさんの教員が参加。講師の一言一言に熱心に聞き入る出席者たち。「体験と実習を礎とする職業観形成法の確立」に向けての意気込みのほどが感じ取れる。



志村先生の講義「キャリア形成論」の出席率はなんと120%。つまり、受講登録していない学生までもが集まって来るといって人気のカリキュラムで、大示範教室がいっぱいになる。先生の軽妙な語り口に真剣に引き込まれていく学生たち。就職についてシビアに考え、満足度の高い職業人になりたいという意識がしっかり根付いてきているようだ。

自己理解用ツールの一面面

パソコン上で示される質問に答えていくと心理学の手法から回答を分析。潜在的な傾向や価値観、職業に対する興味等がひきだされ、グラフと文章で表示される。これらの作業を通して自分の適性や強化すべきポイント等を理解していく。



「地域連携型長期就労実習」報告会

夜間コース向けの地域連携型長期就労実習を体験した学生による報告会。企業ではどんな仕事を担当し、どんな成果、どんな失敗があったか等を自ら報告。教員や後輩学生にとっても大変興味深い内容が語られた。



プログラムの中心人物、志村勉教授によると「これは自己理解のための道具。向いている職種が自動的に示される単なる適職診断等と違い、自分自身とじっくり向き合うことと、自分について理解する過程を重視している、今までにない新しいツール」ということです。完成度が高まれば、全国への普及も期待できます。

工学部のキャリアサービスセンターが中心となって、ソフト開発会社との連携により2カ年計画で開発が進められているこのソフト。自分自身を理解する第一段階が完成し、学生に向けてのガイダンスも行われ、大学内では活用が開始されています。今年度は、自分の強み・弱みから自己の可能性と課題を見つめる機能の開発の段階で、来年度、完成となる運びです。

夜間主コースの学生向けに モノづくりの現場での 就労実習先をあっせん。

2つ目の特徴としてあげられるのが、実践的就労実習です。現在、2つの実践的就労実習が実施されています。そのひとつの「地域連携型長期就労実習」は18年度から正規カリキュラムとして確立しています。これは、夜間主コースの学生に対して地元企業の長期間の就労実習先を斡旋し、その実習の実績を単位として認定するという画期的な仕組み。講義等のない昼間を利用して専門分野に関連した業務を実務現場で体験することで、技術の習得と併せて社会人としての知識やマナーを身につけることを目的としており、具体的には次のような効果が期待されています。①安定した収入を得ることができる。②「工学」に関連した業種で働くことにより現場から様々な知

識を習得することができる。③実務に関連づけた課題を卒業研究テーマとして選定することが可能になる。④企業から即戦力としての期待が持たれる。⑤将来、自分のキャリアや適性、興味のある業種・企業を知った上での就職活動が可能になる等です。一方の地元企業にとっても実習を経て人柄や能力を見極めた上で、即戦力となる優秀な人材を確保する可能性ができるわけです。実施時期・期間は、入学してから、原則として卒業研究着手前の3年次終了までの約3年間としています。

初年度の実績としては、9名の学生が参加し、学生と企業の双方から好評を得ることができました。その実体験を先生や後輩たちの前で発表する機会も設けられ、実習生自身のプレゼンテーション能力を鍛え、後輩たちに刺激を与えるという二次的成果もあったということで、今年度はこの新制度への期待がさらに高まりそうです。幸い、工学部のある米沢市には、大規模な工業団地もあり、受け入れ企業も豊富で非常に恵まれた環境にあるといえます。この新制度に魅力を感じて全国から優秀な学生が集まり、将来的にも山形に就職・定着ということになれば、地域活性化への貢献にもつながるということでさまざまな方面で注目を集めています。

学生参加型活動で 企画・運営力のあるエンジニアへ。

本プログラムの3つ目の特徴としては、学生参加型活動があります。キャリアアップに関する情報収集や企業の方々との交流の場合、例えば、ワークショップやシンポジウム等を学生たちが自ら企画し、運営にあたるものです。この活動の中心は2年生。



それにアドバイザーとして上級生がサポートします。社会へ出る前に情報収集の様々な活動を通じて職業に関する情報に触れることで職業というものを強く意識してほしいと考えているからです。また、社会人との交流等により直接的な刺激を受けることで、人間力の育成に繋げたいという狙いもあります。これらにより、学生の自主性や積極性、コミュニケーション能力、企画・運営力の育成等を含めた新たな教育手法として確立したい考えです。

昨年度は、このプログラム自体が年度途中からのスタートだったということで、教授がリードする場面も多々見られましたが、それでも各種講演会やディスカッションが企画・運営され、さまざまな成果が見られました。2年目となる今年度は、学生たちのさらなる自主性に期待が持たれます。

大示範教室がいっぱいになる講義、関心が高い「キャリア形成論」。

工学部では以前から職業観形成に力を注いできたこともあって学生たちは就職・キャリアといったことに対する関心が非常に高いようです。取材日にも、工学部キャリアサービスセンターの副センター長でもある志村教授の2年生を対象とする「キャリア形成論」の教室は受講生であふれんばかりでした。大示範という大きな階段教室にもかかわらずです。志村先生は、しばしば大手企業で活躍中のOBや各方面の第一人者を教室に招いて学生たちにビジネスシーンのナマの声を聞かせ、リアルな刺激を与えるということをしています。その一環として、その日教壇に立ったのは、工学部OBで日立SC株式会社勤務の中居博さん。ビジネスプロフェッショナルになるための

心構えや、情報処理試験にチャレンジし続けた理由等を自らの体験に基づいてお話をされ、学生たちの興味をひいていました。今後も「キャリア形成論」では、前述の自己理解用ツールと併せ、今回のような外部から職業人を招いた講演会等によって、自己の理解、仕事をするこの意味や意義の理解に向けた知識レベルの情報を提供していきます。

このように工学部では、職業観の形成に向けて多くのメニューを連続的そして段階的に提供し、ストーリー性と全体の関連性を重視した総合化(シンセサイズ)を目指しています。

数値では表すことのできない成果、今後への課題を考える。

このプログラムが目指すところは、志村先生の言葉を借りれば「自分たちが教えた学生たちにはハッピーになってほしい」。つまり、ハッピーな職業人生を送ってほしいということなのです。だから、就職できればいいということではなく、幅広い選択肢の中から職業を自ら選ぶことの大切さを強調しています。一人ひとりのハッピー度、満足度となると、就職率や定着率等のように数値には表せないものだけに、その成果というものは実に目に見えにくいものです。だからこそ、学生に問題点を聞き取りする等しっかりとした評価体制を整えていく必要があると考えられています。

工学部から発信された「ハッピーなキャリア教育」の今後は、他の学部にも他の大学にも少なからず影響を与えていくことでしょう。「社会で輝くエンジニア」に続き、さまざまな分野のプロフェッショナルたちにも社会で思いっきり輝いてほしいものです。

学生参加型活動

学生たちが主体的に活動し、情報収集や企業の人々の交流の場としてワークショップやシンポジウム等を企画・運営。昨年度は、起業家育成の権威を招いての講演会とその後の座談会で白熱したディスカッションを展開。その準備段階でさまざまな情報に接することで職業を強く意識するようになり、自主性や積極性、コミュニケーション能力の育成等にも結びついている。



外部から職業人を招いて講義を実施している「キャリア形成論」のワンシーン。この日の講師は工学部OB。さまざまな資格取得の意義等を語るとともに、盛んに学生たちに問いかけ、挙手をさせる等、参加型の講義を工夫されていた。

人文学部

Faculty of
Literature and Social Sciences

公務員試験対策講座を実施しました

演習・集団討論のテーマ	論文文	外国人労働者問題 雇用問題、格差問題 労働問題 まちづくり、競争原理と行政 少子化・男女共同参画 地域づくり
	集団討論	国際交流と地域社会 環境問題 情報化社会の諸問題 行財政改革・公務員制度 少子高齢化・規制改革 教育(いじめ・不登校問題)

公務員志望の皆さんの二次試験対策をバックアップするため、人文学部では昨年に引き続き、春休みを利用して論文文と集団討論対策の講座を実施しました。今年は新たに、論文文や集団討論に出題されることの多いテーマを解説する9つの講義も用意しました。

この講座には、人文学部、教育学部、理学部から86名の学生が参加し、まずは論文文・集団討論の技法や論文文のテーマにかかわる講義を全員で聞き、基本的な知識

を習得しました。それからテーマごとの少人数形式の論文文・集団討論演習を通じて、実践的な対策を学びました。論文文演習では、実践形式の試験とその指導を組み合わせ、良い作文を書くための技法を短期間で集中的に得られるように工夫しました。

この講座は人文学部以外の公務員志望の学生も受講することができます。次回の講座には、より多くの方が参加されることを希望しています。

地域教育文化学部

Faculty of
Education, Art and Science

講演会

「学校教員を目指す学生のためのセミナー」



平成19年4月23日(月) 16時30分から、地域教育文化学部3号館B31教室において、講演会「学校教員を目指す学生のためのセミナー」を実施しました。本講演会は、教員という仕事の「すばらしさ」を学生に知ってもらい、これからの教育実習及び教員採用試験に当たってモチベーションを高めるということから、本学部教員採用率向上特別対策室及び本学部就職支援委員会の共催により企画されたもので、講師に、教育実践者として、元山形市立第一小学校

校長(現羽陽短期大学非常勤講師)の佐藤誠二氏を迎えて行われました。当日は、200人収容定員の教室に溢れかえんばかりの学生が集まり、会場は熱気に包まれました。佐藤先生は、教員の仕事のすばらしさと厳しさ、教員採用試験を受ける心構え等について話され、学生は真剣な面持ちで、講演に聴き入っていました。予定時間を延長しての講演は、非常に有意義なものとなり、盛況のうちに終了しました。

理学部

Faculty of Science

山形から「星のソムリエ認定制度」全国へ

理学部では、昨年度から科学技術振興機構(JST)のモデル事業として、星のソムリエ資格認定制度を始めました。24名の準案内人が誕生しました。認定制度は、理

学部とNPO法人「小さな天文学者の会」が主催する「やさしい宇宙講座」を8回受講し、レポート提出や実技のテストを経て得る資格です。望遠鏡の仕組みやその使い方、宇宙・星座に関する講義、星空案内に関する実技科目等充実した内容になっています。県外からの受講申し込みも多く、各地で星空ガイドのボランティアを育てようと、

全国の天文台関係者らが認定制度の運営委員会を結成、飯豊天文台・三鷹ネットワーク大学・福島県郡山市ふれあい科学館・和歌山大学宇宙教育研究ネットワーク・西はりま天文台等が星空案内人資格認定制度講座の開催を準備しています。山形では春と夏の2回資格認定講座を開催します。資格を取って、星空や宇宙科学について語る天文ボランティアを始めてみませんか。

<http://astr-www.kj.yamagata-u.ac.jp/yao/>



医学部

Faculty of Medicine

石坂公成米国ラホイヤアレルギー免疫研究所 名誉所長(山形県教育委員会委員長)の講演会を開催

医学部では地域医療を担う医療従事者養成、教育者・研究者養成の在り方等、今後の医学教育者等の資質の向上を図るために年数回にわたり「生涯教育セミナー」を開催しています。5月8日(火)には第15回生涯教育セミナーとして、免疫学の世界的権威である米国ラホイヤアレルギー免疫研究所名誉所長、山形大学客員教授、山形県教育委員会委員長の石坂公成氏を講師に迎え、「医学部における研究と研究者の育成—私の経験から—」と題して講演会が開催さ

れました。

石坂氏は1966年に照子夫人との共同研究により発見したアレルギーの原因となる免疫グロブリン(IgE)を発表し、長年、米国を基点に研究活動を行ってきた経験から、米国と日本の研究費の獲得方法や大学院教育の違い、基礎研究と臨床研究の連携による共同研究の重要性について等、貴重な経験を話していただき、教職員をはじめ学生も熱心に聞き入っていました。



「We can do it! 目指せ! 理系ガールズ!」 が採択

工学部

Faculty of Engineering

文部科学省「女子中高生の理系進路選択支援事業」において、工学部から申請した事業計画が採択されました。事業名は「We can do it! 目指せ! 理系ガールズ!」。実際に理系の職業で活躍している女性と女子中高生の皆さんが接する機会を多く設けることで、女子中高生の皆さんに理系の職業に対して憧れを持っていただき、将来の目標として理系の職業を意識していただくことが事業の最も大きな狙いです。

メインイベントは親子で参加していただく

2泊3日の合宿。合宿は、女性エンジニアや女性研究者等が働く職場に親子一緒に訪問して女性が活躍の様子を見ていただいたり、「ものづくり」を体験していただくことで理科の楽しさを感じていただくことや内容は盛りだくさん。この合宿を通して、女子中高生だけでなく保護者の皆さんにも理系の職業に魅力を感じていただき、同時に理科の勉強の楽しさも感じていただくことで、親子と一緒に理系進路選択後の将来について語り合えることができるよう取り組みます。



農学部

Faculty of Agriculture

「ごみ」から「資源」へ農学部ごみ処理改革 「環境」と「経済」、2つのエコを目指して新たな取り組み

農学部では、平成19年1月から学生によってごみを減量化する、新たな取り組みがスタートしました。

この取り組みの主体となっているのが「エコ・キャンパス推進委員会」で、昨年の秋に学生の有志によって結成しました。委員会では、環境保護やごみ処理費用削減に向けて、ごみの資源化に着目し、構内にアルミ缶やスチール缶、ペットボトル、紙類等を分別する資源回収ポストを設置し、分別回収を進めています。「混ぜればごみ、分け

ば資源」を合言葉に、ごみに対する意識を変えていこうと取り組んでいます。この他にも卒業生から不要になった自転車や家具、家電製品等を引き取り、移行生(2年生)へ販売するバザーを実施しました。大学では、卒業生による投棄自転車、粗大ごみに頭を悩ませていましたが、これにより投棄自転車・粗大ごみの量の減少がみられました。

今後も、大学と学生の協力による大学づくりの取り組みの1つとして、「エコ・キャンパス」を推進していきます。



物質と熱の関係に着目。 環境・エネルギー問題の 解決に向けて高まる期待。

高橋一郎 大学院理工学研究科機械システム工学専攻教授

平成19年度の文部科学大臣表彰・科学技術賞(技術部門)を受賞した高橋先生は、工学部の学生たちが選ぶベストティーチャー賞にも輝き、研究室はダブル受賞に大いに盛り上がっている。文部科学大臣表彰の対象となった「点接触式固体熱物性テスターの開発」は、教授と研究室の学生たち、そして地元企業との共同研究ということで、受賞後も「研究室の主役は学生たちです」と、あくまでも謙虚な高橋先生。熱というエネルギーの有効活用、さらには環境・エネルギー分野の問題解決に取り組む上でも熱物性分野に寄せられる期待はますます大きくなっている。

熱の伝わりやすさや
温まりやすさから物質を判別。
工業部材の劣化や寿命の診断も。

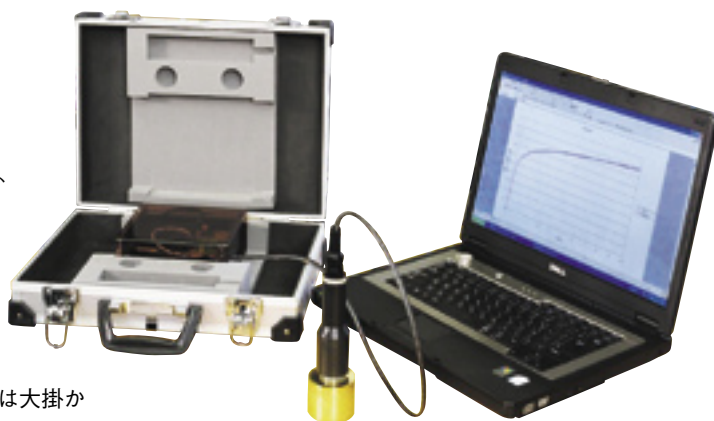
物質によって異なる熱の伝わりやすさや温まりやすさ。そのような熱伝導率や比熱を熱物性といい、それを研究テーマとしているのが「高橋一郎研究室」。目には見えないけれど、どこにでも存在する熱。温度を測ることで熱移動量がわかり、その移動の度合いを解析することで、その物質の熱物性がわかる。逆に言えば、熱物性値を調べればそれがどのような物質かが判別でき、工業部材等の劣化や寿命の診断にも利用できるということ。とりわけ、過酷な環境下

に置かれる工業材料等では熱物性情報が必要とされていることから、この研究室では、特殊な工業材料の熱物性計測や、計測装置の開発に力を入れている。

これまでの計測装置は大掛かりで、工業材料の熱物性情報を得るためには、特別に試験片を作って持ち込んで測定しなければならなかった。ところが、今回高橋一郎研究室が地元米沢の企業との共同研究で開発した装置は、持ち運びに便利なコンパクトサイズ。製品や工業部材をその場で測定できる画期的な装置として受賞の対象となった。

文部科学大臣表彰を受けた
「点接触式固体熱物性テスター」は
ただいま研究室で手作り中。

その画期的な装置というのが「点接触式



点接触式固体熱物性テスター

写真手前のプローブホルダーを被測定物体に10秒間あてるだけで、熱伝導率、比熱容量、熱拡散率といった熱物性を測定、解析することができる。A4サイズのアタッシュケースに収納されており、持ち運びが容易で現場で測定が可能。

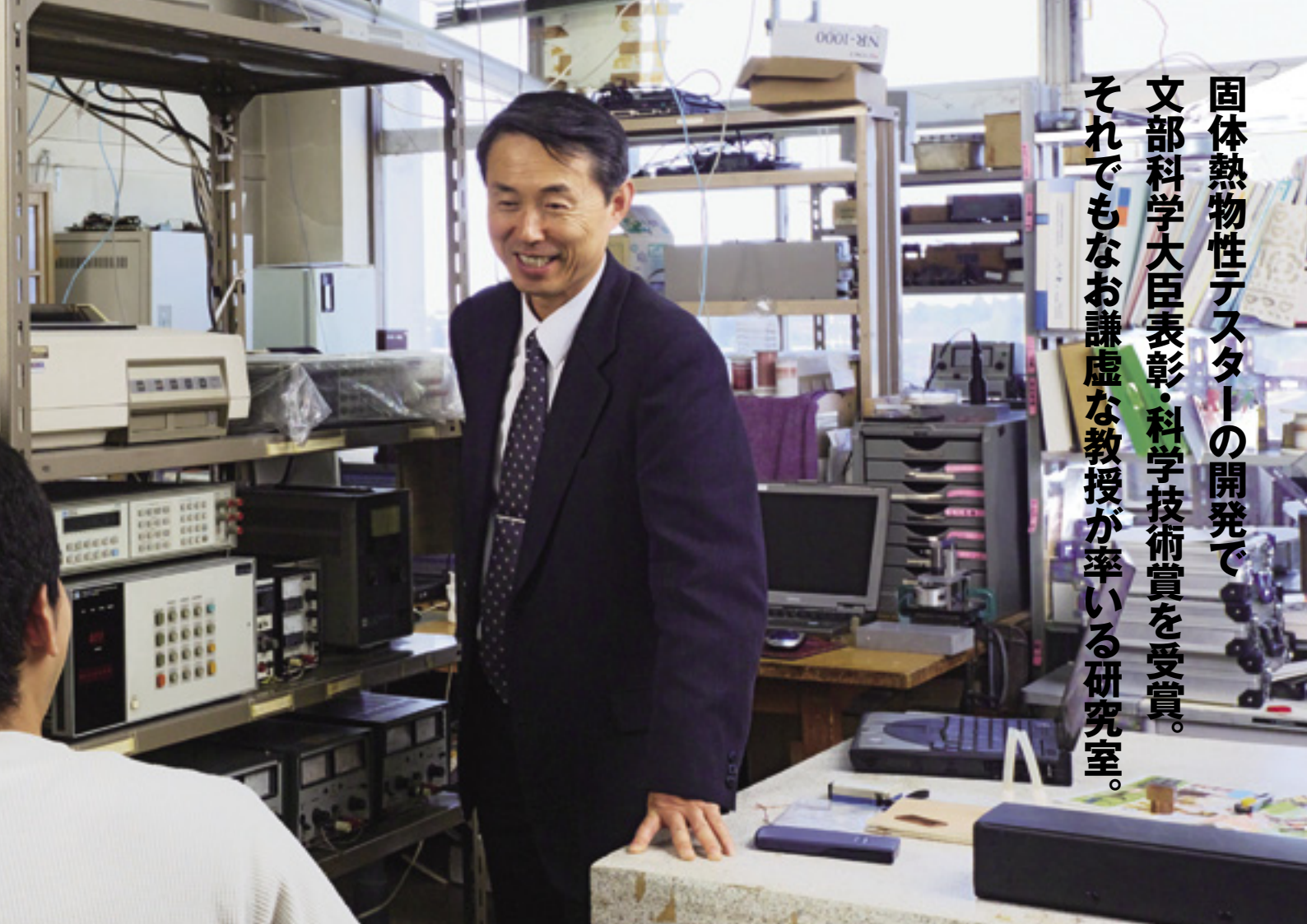
固体熱物性テスター」。その場で測定できるということは、試験片を切り出す必要がないので手間もコストも削減できるというわけ。また、プローブホルダーを非測定物体に10秒間押しつけるだけで測定できるので装置の扱いに熟練を要しないという点



高橋一郎

たかはいちろう ●大学院理工学研究科教授／専門は熱工学、日本熱物性学会副会長。大学院修了後、一度企業に勤務するも教育・研究者の道へ。この春、文部科学大臣表彰と工学部のベストティーチャー賞をダブル受賞。尺八と日本酒をこよなく愛する粋な先生。

固体熱物性テスターの開発で
文部科学大臣表彰・科学技術賞を受賞。
それでもなお謙虚な教授が率いる研究室。



現段階では、研究室の学生たちによって一台一台手作りされている点接触式固体熱物性テスター。

も素晴らしい。さらに、手持ちのパソコンを使って測定と解析ができ、熱3定数(熱伝導率、熱拡散率、比熱容量)を同時に求めることもできる。点接触測定なので管材のような曲面も測定できるほか、熱物性値の分布の測定を通じて、物質や製品の検査・ムラ等の診断にも有効性を発揮する。

世界的にみても今までなかった装置の出現にもかかわらず、今のところ海外からの反響はあまり伝わってこない。品質管理に

シビアな日本ならではの先駆的な開発ということで、海外で注目を集めるのはもう少し先の話になりそうだ。現在、このテスターは一台一台研究室で手作りされており、大学をはじめとする研究機関への普及が始まっている。

**熱物性は重要なキー情報。
新しい素材の開発にも、
加熱・除熱の技術開発でも。**

現在、高橋一郎研究室では、4年生や大学院生たちが10の研究テーマに取り組んでいる。前述の「点接触式固体熱物性テスター」の適用分野を広げるための研究もその一つ。さらに、同テスターを用いた工業部材の劣化・寿命診断技術の開発をも目指している。また、ノート型パソコン等のCPUを冷却する技術の開発にも取り組んでいる。いずれも加熱や冷却といった、まさに熱物性に関わる研究が大半を占める中、異彩を放っているのが、尺八の発音原理の実験的解明。和楽器の尺八の発音原理だけ

が解明されていないということで、尺八の名手でもある高橋先生が解明に乗り出したもので、平成14年から学校音楽教育で和楽器に親しませることが必須となったこともあり、多方面で注目を集めている。

工学の重要な一分野を担う熱物性、その研究対象としてのおもしろさと将来性、そして高橋先生の人柄にひかれて研究室に集まった学生たちが、今日も熱心にそれぞれの研究テーマと向き合っている。



より適用範囲の広い熱物性測定装置。研究室にある大掛かりな装置のため、試験片を持ち込んで測定や解析が行われる。

山大聖火リレー

山形大学で学んだこと、過ごした日々、
それらはやがてさまざまな成果となって、社会に燦々と火を灯す。
現役山大生やOBたちが各方面で活躍する姿を追った。



1

近年、観光都市としても注目されはじめている青島。海沿いの美しい景観とオシャレな建物が、中国のイメージとは異なる雰囲気を出している。陳さん・真紀子さんご夫妻と、真ん中は真紀子さんのいとこ。



2

2

陳さんと真紀子さんの幸せいっぱいの笑顔が印象的な結婚式の写真。左は新婦真紀子さんのお父様(山形大学OB)。もちろん、花嫁衣装はチャイナドレス。国際結婚らしさが伝わってくる思い出の一枚。



3

3

陳さんの仕事風景。中国は今、かなりの勢いで経済成長を遂げており、ビジネスチャンスにあふれている。この好機を追い風に、山形大学で学んだ豊富な知識をフルに生かして経営手腕を振るっている。

山大での出会いから国際結婚へ。 互いを理解し合うことで愛は国境を越えた。

陳偉・佐藤真紀子夫妻 製造工場経営

大学時代に知り合って結婚するカップルは少なくない。中国からの留学生陳さんと函館出身の真紀子さんの出会いの場となったのは山形大学。同じ人文学部、図書館で会うことも多く一年生の頃から顔見知りではあったものの、言葉を交わすようになったのは4年生になってから。卒業後は、陳さんはそのまま山形の大学院へ、そして真紀子さんは北海道大学の大学院へ進学。その大学院生時代に2人は国際結婚をしている。

陳さんは日本留学の最初の3年間を東京で過ごし、日本語を習得した後に、自然豊かな環境の中にある国立大学を求めて山形にやって来た。大学と大学院の6年間、山形で日本経済論、世界経済論、会計学、経営学等を学び、アルバイト経験を通して自

分でやっていけるという自信もつけた。地域の人々との交流にも積極的に参加し、日本の文化や山形の美しい自然にもたっぷり触れることができた。そして少しずつ日本を理解し、日本が好きになっていったという。山大時代に得たさまざまな知識や経験が企業人としての成功につながっており、今後はそれらを中国の発展や日中関係の友好にも役立てていきたい考えだ。

一方、真紀子さんが山形大学を選んだのは、山大出身の父親の強い勧めがあったから。大学に入ったら、入試のための勉強ではなく、真の学問を楽しみたいと考えていた真紀子さんにとって、山形の授業はどれも楽しく新鮮で、気がつけば卒業時には必要単位の2倍以上を取得していた。だから

とって、勉強ばかりしていたわけではない。学食でバイトをしたり、英会話サークルESSのディベート部門で他大学とのバトルに臨んだり、友達と格安旅行をしたり、プライベートもとても充実していたと当時を振り返る。そんな2人が中国で暮らすようになって6年。折しも中国はダイナミックな変化のまっただ中。陳さんと真紀子さんが日本で、大学で学んだことがさまざまなカタチで生かせる時代。陳さんはビジネスに、そして真紀子さんは週5回大学に通って中国語や中国文学を学ぶ傍ら、日本人婦人会の活動に参加する日々。国や文化の違いを乗り越えて理解し合うことの大切さや素晴らしさ、そして学び続けることの謙虚さを二人の生き方に学んだような気がする。

交流の成果

今回のランナー:



陳偉(左)、佐藤真紀子(右)

ちんい●中国出身。2002年度大学院社会文化システム研究科修了。現在、中国青島にて日本向け輸出製品の製造工場を経営。さとうまさこ●北海道出身。2000年度人文学部卒業。陳氏と結婚、中国在住。週5回大学で中国語や中国文学を勉強中。



大地悠子

おおちゆうこ●山形県出身。地域医療に関心を持つ医学生。日米学生会議等の国際的な活動にも積極的に参加。さらに、硬式テニスや学生新聞づくりでも活躍中。

さまざまな人々とふれあうことで人間性を磨き、医療の世界で役に立てる存在になりたい。

大地悠子 医学部医学科6年

女子医学生にしてTOEIC770点、日米学生会議やNGO活動のカンボジアワーキングキャンプへの参加経験もあり。それらの経歴から想像すると、大地さんとは、きっと自信たっぷりの優等生タイプでちょっと取っ付きにくい人。ところが、目の前に現れた大地さんは、とても華奢でにこやかなごく普通の子供学生。共働きでずっと働いているお母さんの姿を見て、自分も何か手に職をつけたいと医学部を目指したという。確かに、医者とは究極の「手に職」と言えなくもない。それに、「国境なき医師団(MSF)」という国際的な民間の医療・人道援助団体の活動に共感したことで思いはより確固たるものになっていった。

山形生まれの山形育ち、経済的なことも

考えて大学は地元を選択。ましてや医学部ということで専門性が高く、さまざまな意味で知識や感覚が偏りがちと感じた大地さんは、それ以外の世界に触れてみたいとチャンスがあれば積極的に飛び込んでいった。日米学生会議への参加、カンボジアでのワークキャンプ活動、全国の医学生を対象とする「医療政策クラークシップ」への参加等は、人間性を磨く上で有効と考えたから。県外へ、海外へと飛び出していったことで、逆にふるさと山形の素晴らしさに気づくことができたという。外に出るほど帰る場所がある幸せを感じることができたとも。さまざまなシーンで山形出身であることをアピールし、そこで山形のことを説明するうちに自分自身も山形に魅了されてい

った。また、他の大学の学生や国籍、年齢が違う人々と交流を持つことにも大きな意義を感じるので、後輩のみなさんにも、ぜひ、いろんな意味で「外に出てみることを」勧めたいという。

山形県には医師不足といわれる地域も多いということで、医師として山形の役に立ちたいという思いの一方で、臨床医が臨床に専念できる地域特性を生かした医療が実現できるような制度を作り、変えていく仕事にも興味があるという大地さん。もともと人と接することが好きだという彼女の、まずは、臨床医として医療現場を経験した上で、次なるステップを目指すことだろう。近い将来、医療の世界でどのような活躍を見せてくれるのかそっと見守りたい。

活動の成果



1

1 カンボジアでボランティアツアーに参加。首都プノンペンから車で1.5時間の電気も水道もない村で活動。好奇心旺盛な子ども達が真っ先に寄ってきて、一緒に遊んだ。みんなの目がきらきらして笑顔が素敵だった。



2

2 日米学生会議(JASC)科学分科会の仲間達と。社会と科学の関わり方について分科会内でディスカッション。ニューヨークでは国連本部を見学する等、フィールドワークも多く充実した4週間だった。



3

3 ワークキャンプで訪れたカンボジアで姉妹結縁した現地の大学生ソクヘン(左)と、家族結縁したPT村のお父さんと子どもたち。ソクヘンの通訳で村の人々とのコミュニケーションがとれた。また会いたい。



山大のある風景

シリーズ⑤

松波地区

山形大学附属幼稚園、附属小学校、附属中学校、附属3校園が並んで建つ松波地区。昭和49年には県庁が同地区に移転し、さらにその東には山形自動車道の山形蔵王ICが開業し、見渡す限りの田園地帯はここ数十年で行政・ビジネス・交通の要所として著しい発展を遂げた。山形大学との連携による教育的な取り組みの成果もあって、文教の街としての評価も高い松波エリア。この界隈の変貌の中心には常に附属学校園があった。



昨年改築された附属中学校の多目的「六稜ホール」と草木塔が建つ庭。ウッドデッキから図書館へと続く。

一面の田園地帯から、いまや文教の街へ。
松波地区の発展は、附属学校園から始まった。

YAMAGATA
山形

1 山形大学附属学校園が移転してきた頃の空撮。中学校だけが完成し、A地点で道が途切れているのがはっきりわかる。2 今から10年ほど前の空撮、延長された道路、県庁、住宅もかなり密集している。3 写真2のB地点の先にある山形自動車道山形蔵王インターチェンジ。4 昨年、改装された附属中学校校舎。5 子どもたちがのびのび駆け回る緑豊かな附属幼稚園。6 来年が開校130周年という長い歴史を誇る附属小学校。7 現在は、医学部のある飯田キャンパスに隣接する附属特別支援学校(本年4月、養護学校から名称変更)。



明治11年に山形大学附属小学校の前身となる山形県師範学校附属小学校が開校し、来年で130周年。その後、附属幼稚園が誕生し、附属中学校は今年ちょうど60周年を迎えました。当初は旅籠町にあった施設が数度の移転を経て、昭和44年により現在の松波地区に3つの附属学校園が落ち着いたのです。一時は、附属特別支援学校(旧・養護学校)もいっしょでしたが、現在は医学部のある飯田地区にあります。今でこそ、県庁舎があり、マンションが建ち、各種事業所等もあり、山形自動車道山形蔵王インターチェンジへと続く通りでもあり、大変活気のあるエリアとなっていますが、当時は一面の田園地帯。道路も中学校の前でブツツと途切れており、バスが校門前でUターンしたといいます。その名残で中学校の校門前は今もかなり広いままです。

山形大学の学生たちの教育実習や公開研究会の場となることも多い附属学校園。山形駅前通りの延長上にあり、13号バイパスからはすぐ、そして小白川キャンパスからも近いという立地は、理想的といえるのではないのでしょうか。附属学校園の誕生以降、文教の街としてのイメージがすっかり定着し、住宅地としても人気の松波地区。山形市のシンボルである千歳山が間近に迫るこの地域で、今日も子どもたちは元気に学び遊んでいます。その声、その姿は、もうすっかりこの街の一部分です。

1 大邱大学校(韓国)と大学間交流協定を締結

山形大学は、4月16日(月)に韓国・大邱市の大邱大学校との大学間交流協定を締結しました。

大邱大学校自然科学大学と本学理学部の間では、平成2年7月に学部間交流協定を締結し、交流を続けていましたが、このたび大学間交流協定を締結することとなり、大邱大学校の李龍斗^{イ・ヨンド}総長夫妻ほか2名が本学を訪問し、調印式が行われました。

調印式に先立ち、理学部長を表敬訪問した後、大邱大学校出身の留学生在が学ぶ研究室を訪れ、留学生から研究の紹介を

受けました。

調印式は小白川キャンパスの事務局第一会議室において行われ、初めに、仙道学長及び李総長からスピーチが行われ、両大学の学生、教職員の交流と研究・教育両面の情報交換による一層の発展について抱負が述べられた後、協定書へのサインが行われました。

会場を移して、李総長の記念講演会が「21世紀の大学革新のための提言」と題して行われ、会場は学長をはじめとする多数の教職員が詰めかけ、大学革新のあり方について熱心に耳を傾けました。

山形市内のホテルで行われたレセプションでは、本学の学生サークルによる花笠踊りが披露され、会場を盛り上げました。

翌日には、理学部主催の交流会が催され、これまで交流に携わった理学部教員、大邱大学校出身の留学生等も参加し、終始和やかな雰囲気の交流会となりました。

大学間交流協定が締結されたことにより、山形大学と大邱大学校との更なる交流の発展が期待されます。



調印式 李総長(右)と仙道学長(左)



講演する李総長



レセプション会場にて

1 アメリカでの留学生生活を終えて

教育学部学校教育教員養成課程教科教育コース技術教育専攻
4年 長野翔伍

私は2006年6月から1年間、ニューヨーク州立大学アルバニー校へ語学留学しました。初登校の日に衝撃を受けました。目を疑う程たくさんのリスがキャンパス内を跳び回り、大規模な噴水が校舎の真ん中にあり、そこで近所の子供達が水遊びをしていました。雰囲気が日本とは全く違い、規模も予想を遥かに超えて大きく、圧倒されました。初日はオリエンテーションがあり、これから共に学ぶクラスメートとパーティーをしました。



英語クラスにて

そこには多種多様な人種・世代の方たちがいて、それぞれの国の話や、アメリカに留学に来た目的等、多くの人達と異文化交流を楽しみました。同日にブレースメントテストを受け、4クラスある中の一番下:レベルAに入りました。中・高・大学と約10年間も英語を習って来てレベルAという結果にショックを受けつつも、今の自分の英語能力はこんなもんなのだと自分に言い聞かせ、帰るまでには一番上まで登りつめてやると心に誓いました。

滞在中は主に寮に住んでいました。アメリカ人のルームメイトがいて、沢山のアメリカ人の友達を紹介してくれたり、パーティーに招待してくれたり、困った時には助けてくれたりと彼のお陰で留学生活が本当に充実したものとなりました。ルームメイトがいて、英語を話す機会も増え、また彼が自分の英語を正してくれたので、英語上達への大きな手助けとなりました。とは言え、警察が彼を捜し



ダウンタウンキャンパス

て寮の部屋まで踏み込んできたことや部屋の汚さ、等々、困った事もありましたが。

学校は週五日制で、朝9時から午後3時まで授業があります。もちろん授業は全て英語で行われ、学校にいる間はたとえ日本人同士でも絶対に英語で話さなければなりません。一年間みっちり英語漬けになったお陰で帰る頃には念願のレベルDになっていました。この留学生活で英語だけではなく、自分もやれば何でもできるのだという自信ができました。

オープンキャンパス

学部説明会

(対象者は高校生、場所は各キャンパス)

- 飯田キャンパス 8月3日(金)
医学部(医学科) / 学科説明会等
※8月2日(木)体験授業(一日医学生)
医学部(看護学科) / 学科説明会等
- 米沢キャンパス 8月3日(金)
工学部 / 研究室見学、模擬面接等
- 鶴岡キャンパス 8月3日(金)
農学部 / 模擬講義、施設見学等
- 小白川キャンパス 8月4日(土)
人文学部 / 特殊教室見学、模擬授業等
※3年次編入学説明会
地域教育文化学部 / 就職状況説明、
体験学習等
理学部 / 体験入学、学部・学科説明会等

大学院説明会

- 社会文化システム研究科 7月25日(水)
問い合わせ / 学務部入試ユニット
TEL 023-628-4141

入学試験

- 工学部
アドミッション・オフィス入学試験(AO入試)(Aコース)
(第1次選考)9月29日(土)工学部(米沢市)
(第2次選考)12月1日(土)工学部(米沢市)
- 医学部3年次編入学(看護学科)
9月3日(月) 医学部(山形市)
- 工学部3年次編入学(A・Bコース)
9月8日(土) 工学部(米沢市)
- 農学部3年次編入学
7月7日(土) 農学部(鶴岡市)
- 大学院社会文化システム研究科
(推薦)9月20日(木)
(一般、社会人、外国人留学生)
9月21日(金)人文学部(山形市)
- 大学院理工学研究科(理学系)博士前期課程
(推薦)7月14日(土)
(一般、社会人、外国人留学生)
8月20日(月)・21日(火)理学部(山形市)
- 大学院医学系研究科
(医学専攻・生命環境医科学専攻)
8月22日(水) 医学部(山形市)
- 大学院医学系研究科(看護学専攻)
8月31日(金) 医学部(山形市)
- 大学院理工学研究科(工学系)博士前期課程
(推薦)7月20日(金)
(一般)8月23日(木)・24日(金)

(社会人)8月23日(木)
(外国人留学生)8月24日(金) 工学部(米沢市)

- 大学院理工学研究科(工学系)博士前期課程
(平成19年10月入学)
(一般)8月23日(木)・24日(金)
(社会人)8月23日(木)
(外国人留学生)8月24日(金) 工学部(米沢市)
- 大学院農学研究科
9月7日(金) 農学部(鶴岡市)
- 大学院理工学研究科(理学系・工学系)
博士後期課程
(第一回)8月31日(金) 理学部(山形市)・工学部(米沢市)
- 大学院理工学研究科(工学系)
博士後期課程(平成19年10月入学)
8月31日(金) 工学部(米沢市)
問い合わせ / 学務部入試ユニット
TEL 023-628-4141

公開講座等

地域教育文化学部

100年後の街を考えてみよう

立体模型を使った未来のシミュレーション

日時 / 9月8日(土) 9:30~15:00

場所 / 地域教育文化学部1号館1階

環境デザイン実習室(山形市)

募集人員 / 小学生~高校生、まちづくりに関
心のある方 20人

受講料 / 大人800円、高校生500円、
小・中学生200円

その他 / お弁当を持参のこと

問い合わせ / 地域教育文化学部事務ユニット
総務チーム

TEL 023-628-4304

教職研究総合センター

最近の国の教育政策と
山形県の教育方針

日時 / 9月7日(金)~28日(金)

18:30~20:00 毎週金曜日 4日間

場所 / 地域教育文化学部1号館1階

A4教室(山形市)

募集人員 / 一般の方 50人

受講料 / 2,000円

問い合わせ / 地域教育文化学部事務ユニット
総務チーム

TEL 023-628-4304

理学部

親子で体験! バイオロジー-5
不死身?の生き物プラナリアの不思議!

日時 / 8月5日(日) 13:00~15:00

場所 / 山形県立博物館(山形市)

募集人員 / 小学生・中学生、およびその保護者
30人

受講料 / 無料

問い合わせ / 理学部生物学科中内研究室
TEL 023-628-4622

サイエンス・サマースクール
in やまがた

日時 / 8月1日(水)・2日(木)・7日(火)・

8日(水)・9日(木)・10日(金)

10:00~16:00

(希望するコースをお申し込みください)

場所 / 理学部各実験室(山形市)

対象 / 高校生

受講料 / 無料

問い合わせ / 理学部事務ユニット
TEL 023-628-4505

第5回山形大学と高等学校の
数学教員の研究交流会

日時 / 9月28日(金) 13:30~16:30

場所 / 理学部(山形市)

対象 / 山形県内の高等学校数学教員と
山形大学の主に数学教員

受講料 / 無料

問い合わせ / 理学部数理科学科
佐藤(圓)研究室
TEL 023-628-4529

医学部

排尿障害、診断・治療・介護の実際

恥ずかしがらずに勇気を出して取り組み、
なおります、よくなります

日時 / 9月29日(土) 13:30~16:50

場所 / 医学部キャンパス内山形医学交流会場
(山形市)

募集人員 / 医療従事者、介護関係者、一般の方
100人

受講料 / 2,000円

問い合わせ / 医学部総務ユニット

総務管理チーム(庶務担当)

TEL 023-628-5006

工学部

21世紀を担うキーテクノロジー
機械システム工学

日時 / 8月3日(金) 13:00~16:30

場所 / 工学部(米沢市)

対象 / 高校生、大学生、一般の方 70人
参加費 / 無料

山形大学の行事・催事のご案内です。
地域に根ざした大学としてみなさんのご参加をお待ちしています。

問い合わせ／工学部事務ユニット
研究支援チーム
TEL 0238-26-3004

先端エレクトロニクス 暮らしに役立つ電気電子工学

日時／9月15日(土) 13:00～17:00
場所／名古屋会場(河合塾16号館名古屋校北館3L)
対象／高校生、教員、社会人 90人
参加費／無料
問い合わせ／工学部事務ユニット
研究支援チーム
TEL 0238-26-3004

農学部

私たちのくらしにいかす 生物のはたらき

日時／8月4日(土)～25日(土)
13:20～17:00 毎週土曜日 4回
場所／農学部3号館102講義室(鶴岡市)
募集人員／一般の方、大学生、高校生 50人
受講料／2,000円
問い合わせ／農学部事務ユニット
総務チーム(総務担当)
TEL 0235-28-2805
FAX 0235-28-2812

学術情報基盤センター

情報社会で快適に生きる知恵 を身につけよう!

日時／8月2日(木)
午前の部(子ども向け講座)
10:00～12:00
午後の部(保護者・教員向け講座)
13:00～16:00
場所／学術情報基盤センター(山形市)
募集人員／児童・生徒及び保護者、教育関係者、学生、情報教育に関心を持つ一般社会人
午前・午後 各50人
受講料／テキスト代実費のみ
問い合わせ／学術情報基盤センター
TEL 023-628-4680

附属特別支援学校

気になる子どもへの支援、 具体的な対応を考える

日時／7月11日(水) 15:40～17:30
場所／附属中学校多目的ホール
「六稜ホール」(山形市)
募集人員／幼稚園・保育園・小学校・中学校・

特別支援学校等の教員、保護者、
関係諸機関担当者 150人
受講料／500円
問い合わせ／附属特別支援学校
TEL 023-631-0918

附属中学校

親子で楽しむ夏の星座

日時／8月5日(日) 10:00～11:30
場所／附属中学校 多目的ホール
「六稜ホール」(山形市)
募集人員／幼児・児童・生徒とその保護者(中学生以上は親子でなくとも可)、幼稚園・保育園・小学校・中学校・特別支援学校等の教員 親子50組
受講料／無料
問い合わせ／附属中学校
TEL 023-641-4440

附属幼稚園

幼児期の子育て

日時／9月22日(土) 10:00～11:30
場所／附属中学校 多目的ホール
「六稜ホール」(山形市)
募集人員／未就園児と保護者 30組
受講料／500円
その他／運動のできる服装でおいでください。
問い合わせ／附属幼稚園
TEL 023-641-4446

参加事業

大学コンソーシアムやまがた 「サイエンスカフェ」& 「山形県大学ガイダンスセミナー」

日時／7月7日(土)
場所／新庄市民プラザ(新庄市)
●サイエンスカフェ
11:30～12:30(1F市民ホール)
内容／中学生・高校生と科学者が、科学の話や簡単な実験を交えながら、飲み物を片手に語り合う。
●山形県大学ガイダンスセミナー
13:00～16:00(1Fと3F)
内容／県内各大学・短大等による進学相談コーナー、(独)大学入試センターによるハートシステム体験コーナー、模擬授業(2コマ×2時限)
入場料／無料
当日は、同会場では山形大学の「移動大学祭」も開催されます。

問い合わせ／大学コンソーシアムやまがた事務局
(山形大学企画部社会連携ユニット)
TEL 023-628-4842
FAX 023-628-4849
eメール unicon@jm.kj.yamagata-u.ac.jp

共同事業

山形の魅力再発見パート5

山形県の健康と生活文化

日時／7月1日(日)・8日(日)・15日(日)
場所／山形医学交流会館
(山形市 山形大学医学部内)
募集人員／一般の方、大学生、高校生 25人
受講料／6,000円
問い合わせ／文学部 松尾研究室 青木
TEL・FAX 023-628-4736
文学部事務ユニット総務チーム
TEL 023-628-4203

小さな科学者・体験学習会 「光の不思議」

日時／7月21日(土) 13:30～15:30
場所／山形県産業科学館 4階発明工房
(山形市)
募集人員／小学4年生～中学生、および保護者 20人
問い合わせ／山形県産業科学館
(霞城セントラル内)
TEL 023-647-0771

わくわく化学実験ランド

日時／7月22日(日)
午前の部 10:30～12:30
午後の部 14:00～16:00
場所／山形県産業科学館 4階発明工房
(山形市)
募集人員／小学4年生以上とその保護者
午前・午後 各10組
問い合わせ／山形県産業科学館
(霞城セントラル内)
TEL 023-647-0771

小さな天文学者・体験学習会 「望遠鏡を作って、観る」

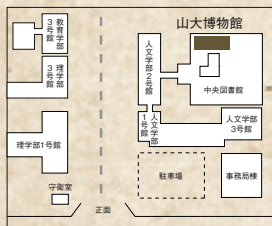
日時／8月18日(土) 18:00～20:00
場所／山形県産業科学館 4階発明工房・屋上
庭園で観測(山形市)
募集人員／小学4年生～中学生、および保護者 20人
問い合わせ／山形県産業科学館
(霞城セントラル内)
TEL 023-647-0771

山大博物館

YAMADAI MUSEUM

シリーズ⑨

山形大学附属博物館の
収蔵品をはじめ、
大学が誇る貴重な資料を
紹介いたします。



附属図書館及び附属博物館は学外の方も
ご利用いただけるように開放しております。
利用方法等は図書館カウンターにお
申し出ください。知的宝物がいっぱいの
附属図書館・博物館に是非お越しください。

正式な名称は「黒漆塗銀杏齒露卯差
齒高下駄^{くろうるしめりいちようばう ぼうさし}」。
なんと長い名前だと驚か
れることでしょうか、
歯の部分^ばが台形
(銀杏の葉を逆さにした形)になってい
ます。また、「露卯^{ろぼう}」
と書いて差歯のほ
ぞが台部の表面に表れています。つま
り、下駄の構造説明がそのまま名称に
なったものなのです。

江戸末期までは、下駄の構造として
露卯作りが一般的でしたが、その後急
激に衰退し現在ではなかなか見ること
ができません。なお、現在は差歯の
ほぞが表面に表れていないもの(陰卯)、
一本の木をくり抜いて作るものが主流
となっています。

元来、本資料のような特徴の下駄が
作られたのは、中国北部のぬかるみの
多い黄土地帯でした。台形の下部が広
がっていることでぬかるみに足を取ら

れず、露卯であるために差歯が抜けに
くいという条件は、雨が多く粘土質の
土壌が多い日本の風土・気候にも都合
のよい履物として重宝がられたのでし
ょう。関東以北では「足駄」とよび、「高
下駄」は関西の呼び方です。関西風の
名称が付けられているところが、この
下駄のルーツと流通の経路を物語って
いるのではないのでしょうか。

江戸時代に山辺町大蔵の商人 稲村
七郎左衛門が、紅花等を京都に売った
代金で京都から買ってきたもので、台
部の焼き印は稲村家の屋号です。

そもそも下駄は消耗品であり、後世
まで残ることは珍しいのですが、右方
の前歯が極端にちびていて、足の指の
跡がついたこの下駄をながめていると、
なんだか使っていた人の歩き癖等を想
像して微笑ましくなってきます。



高下駄

台部 幅7センチ 長さ23センチ 歯の高さ7センチ 材質 桐(漆塗り仕上げ)



編集後記 Editor's Note

「物と心の履歴書」この本は若い頃に会った高田宏氏のエッセイです。物に纏わる様々な記憶は、時には人々の様々な
営みや関わりをも思い出させてくれるものです。今回の山大博物館シリーズ⑨では、高下駄が紹介されています。盛岡の
地で高校時代を過ごした自分にとって高下駄は高校の先輩でもあった従姉からの入学祝でいただいた思い出深いプレゼン
トでした。当時、生きた化石とまで言われたバンカラとなり、この高下駄の音とともに高校時代を過ごしました。現代は
さまざまな物が溢れていますが、その一つ一つに何か、心を感じることもできるのではないのでしょうか? 何かをきっかけ
に、その物を必要だと考えた人。アイデアを考え、具体的に物を作り出した人。物を受け取り、改良しながら使い続ける人。
様々な人たちの関わりが物を通してイメージされてきます。今回もみどり樹でお伝えできた紙面から、改めて山形大学を、
そして山形大学に関わる様々な人々を、時には発見をし、時には思い出すきっかけになってくれればと願うばかりです。
(広報委員会委員 佐藤慎也)

表紙の ことば

志村先生の「キャリア形成論」の講義風景。この日は、工
学部OBであり、日立SCで活躍中の中居氏が教壇に
立ち、自らの体験談を交え後輩たちに熱いエールとア
ドバイスを送った。学生たちも強い関心を寄せていた。

- この「みどり樹」は下記URLからもご覧になれます。
URL : <http://www.yamagata-u.ac.jp/html/kouhoushi.html>
- 「みどり樹」に対するご意見・ご質問等をお気軽にお願いします。
E-mail : sombun@jm.kj.yamagata-u.ac.jp
- 「みどり樹」は、3月、6月、9月、12月に発行する予定です。

—地域に根ざし、世界を目指す—



山形大学ホームページ <http://www.yamagata-u.ac.jp/index-j.html>